

【概況】<中国コロナウイルス再流行による需要減~米国金融引き締めにより景気失速>

●8日、米労働省が朝方発表した6月の雇用統計によると、失業率は3.6%と前月比横ばい。景気動向を敏感に反映する非農業部門の就業者数は37万2000人増と市場予想を大幅に上回りました。良好な雇用情勢を受けて石油需要の改善期待から市場は原油買いで反応しました。またロシア裁判所が、ロシア経由でカザフスタンのテンギス油田と黒海に至る原油送油管に対して30日間の操業停止命令を出したことも材料視されて相場は104.79ドルへ続伸しました。

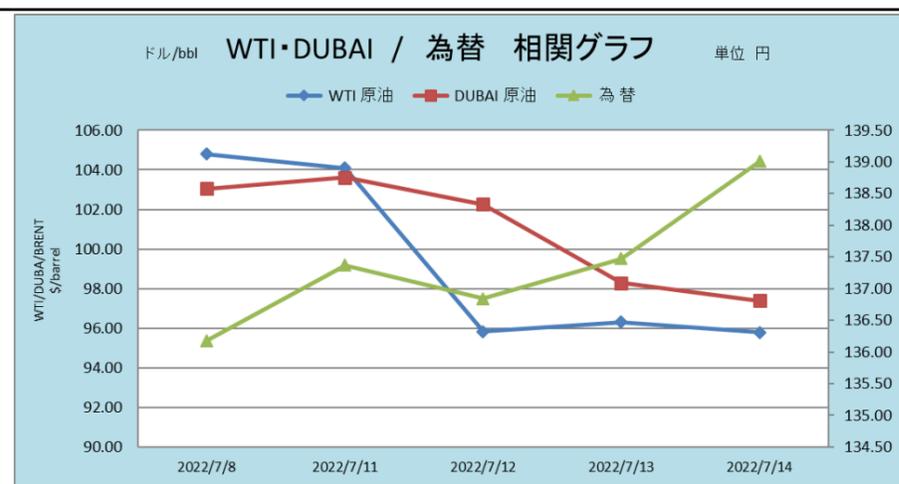
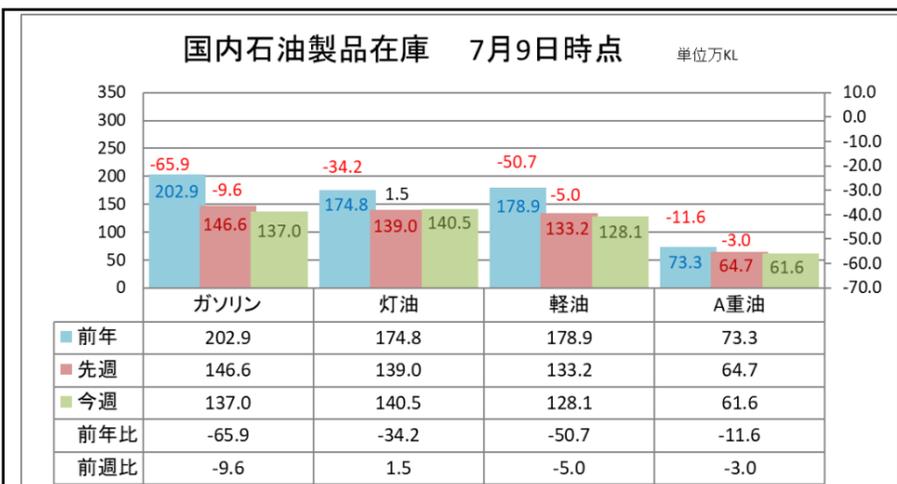
●11日、中国の複数都市で新型コロナウイルスの感染抑制に向けた新たな制限措置が導入される中、上海市で10日感染力が強いとされるオミクロン株の「BA. 5」系統への感染者が初めて確認されました。一斉PCR検査の実施などが決まったため、市場は再度のロックダウン(都市封鎖)を警戒中。世界的な景気後退(リセッション)懸念に、中国のエネルギー需要をめぐる先行き不透明感が加わり相場は104.09ドルへ下落しました。

●12日、外国為替市場では、対ドルでのユーロ売りに一服感が出たものの、ユーロは引き続き約20年ぶりの安値水準で推移。ドル建てで取引されるエネルギー商品などの割高感は根強く原油売りを後押ししました。また中国各地で新型コロナウイルスが再流行する中、制限措置を再強化する動きを受け、ロックダウン(都市封鎖)への警戒感も台頭し中国のエネルギー需要の先行きに対する不透明感は根強く相場は95.84ドルへ急落しました。

●13日、この日は前日の急落の反動から安値拾いの買いが入りました。また、外国為替市場でドルの対ユーロ相場がいったん上昇した後で下落に転じたことから、ドル建てで取引される商品の割安感につながり、原油が買われ相場は96.30ドルへ続伸しました。

●14日、14日発表の米卸売物価指数(PPI)もインフレ圧力の強さを示す内容となり、市場では急速な金融引き締めによって景気が失速し、エネルギー需要が鈍化することへの警戒感が再燃しました。また、中国で新型コロナウイルス感染が拡大していることも売り材料視された事で朝方では一時90.56ドル迄値が下がりましたが、その後買い戻しが入り相場は95.78ドルへ値戻しました。

7月15日 17:00現在 WTI原油 96.80ドル 為替 1ドル 139.94円



	次回元売変動予測	
	7/21~	元売変動予測
ガソリン	→	-2.7~-3.2
灯油	→	-2.7~-3.2
軽油	→	-2.7~-3.2
A重油	→	-2.7~-3.2
LSA	→	-2.7~-3.2

※原油コスト「-2.7~-3.2円」
 ※激変緩和補助金「-37.1円」
 ※現時点での予測です。

【製品卸価格】<7月16日以降元売週間玉の競争力が増す展開に>

《今週》今週の元売り仕切り改定は3社ともに原油コスト「-5.5円」、補助金「-36.9円」、都合「-1.6円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの11日時点の小売価格平均は172.7円となっております。

今週のマーケットの主役は、元売り月間玉及び市況連動玉を持つ業者でした。両社は、13日までにある程度枠を消化しないと14日以降の価格改定後は週決仕切にかなわないため販売を強化しました。

《7月16日以降》次回の元売り改定は、原油コスト「-2.5円~-3.0円」の値下げ改定予測で、激変緩和補助金は「-37.1円」の見込みで、都合「-2.7円~-3.2円」の値下げ改定の予測となっています。14日の価格改定以降は、元売週間玉を持つ業者が再び競争力を増し販売の主役になると思われます。21日以降の価格改定も下げが見えているため元売月間玉及び市況連動玉を持つ業者の販売チャンスは益々減ってきています。元売月間玉及び市況連動玉を持ち枠を残している業者は、次回の価格改定以降のもう一段の市況下落の前までに売り切るため早めの対応をする先もあるかもしれません。

【次世代エネルギー】<CO2からリチウムイオン電池材料をつくる>

昭和電工株式会社の地球温暖化を助長する二酸化炭素(CO2)を化学品や燃料に作り替えるカーボンサイクル技術が脚光を浴びています。話題となった技術はCO2を分解し、取り出した炭素で黒鉛を製造する事で、同志社大学発ベンチャー企業のアイ'エムセップ(京都市下京区)と18年から共同研究し、熔融塩電解技術でのCO2の分解に成功したとの事です。SECカーボンはCO2からリチウムイオン電池の材料をつくる技術を確認出来ました。コークスなど化石資源を使わずに黒鉛を生産できるだけでも脱炭素に貢献するが、CO2由来の黒鉛はリチウムイオン電池材料に適しており、引き合いが殺到しているとの事です。また、電池の充電性能向上は、負極材料の黒鉛粒子のきめ細かさが鍵となっており、SECカーボンの経営企画室の矢野賢氏は「CO2由来の黒鉛は、できあがった瞬間から粒子が細かい」と強調されています。しかも不純物がない高品質な黒鉛であり性能向上が期待できるとの事です。今後は量産技術を確認した後、他社に黒鉛製造プラントを提案する計画もあり、老舗企業のカーボンリサイクル技術が、日本の製造業を脱炭素へ導きたいとの事です。

【出典】 ① <https://newsswitch.jp/p/32606>